

力を合わせて切り開く地方経済

地域の商工業者を会員として、地域経済を支えるためのさまざまな活動を行う商工会議所。今回の市長対談では、10月末まで津商工会議所会頭を務められた三重交通グループホールディングス株式会社社長の岡本直之さんに、会頭としての2期6年間を振り返って、地域経済・企業の課題、津市のさらなる活性化についてお話を伺いました。

市長 平成25年の会頭就任からの6年間を振り返り、印象に残る活動やエピソードをお話してください。

岡本 1期目から「お役に立つ商工会議所」をスローガンに活動しました。2期目になって「行動する商工会議所」を加えました。言いっぱなしになることは多いですから、それではいけないということです。

会頭就任中に、津商工会議所設立125周年を迎えました。記念行事では、諸先輩の偉大さを感じると同時に後輩に良き伝統を伝えられました。

商業振興においては、市の取り組みとは表裏一体、車の両輪のようなものと考えています。市との人事交流も始まり、市長や幹部の皆さんとの懇談会も活発化させました。明らかに津商工会議所の活動は充実してきたと思います。

市長 津まつりでの会員企業のトイレ開放は会頭のアイデアで実現しました。

2期目には三重県商工会議所連合会会長もお務めになり、県内の商工会議所を取りまとめられました。

岡本 県内12の商工会議所が力を合わせて、三重県の発展にお役に立ちましょと呼び掛けました。12人の会頭が集まって、三重県知事に対する政策と予算の要望活動をしましたし、道路整備についての中部地方整備局長との意見交換会にも全員が出席しました。

市長 社会基盤、インフラは経済界と行政と一緒に声を上げていかなければいけない部分で、各市の会頭と市長と一緒に要望活動するケースもあります。今後もよろしく願いいたします。

さて、津市では平成29年4月に津市ビジネスサポートセンターをあのつ台に開設しました。ビジネスサ

ポートを掲げた事業というのは、市町単位ではあまり例がないのですが、この拠点で既存企業の「経営支援」や起業を目指す「創業支援」などに取り組んでいます。

経営支援では、これまで年間86件だった相談件数が、ビジネスサポートセンター開設2年目の平成30年度には154件と約2倍になっています。

創業支援は、年間6件だった創業件数が、平成30年度には50件と約8倍に増えています。どこから手を付けていいのか分からないなどの相談に、一つ一つ専門家や職員がしっかり寄り添い、サポートする体制ができてきたと思っています。

岡本 津商工会議所も中・小規模事業者から零細企業まで、経営相談やインターネットを活用した情報発信

ワークとライフの
相乗効果が
期待できる社会に

津商工会議所前会頭

岡本 直之さん

OKAMOTO NAOUYUKI

1946年伊賀市生まれ。大学卒業後、近畿日本鉄道株式会社入社、2007年に同社副社長。2010年三重交通グループホールディングス株式会社社長に就任、2016年から同社会長。2010年から津商工会議所副会頭、2013年から2019年まで会頭。2016年から2019年まで三重県商工会議所連合会会長を務めた。

